

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	神学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価 (就職先の評価、卒業生評価)
小項目	6.4.2 学位授与 (卒業・修了判定) は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策 (院) (専門)

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 進路も含めた修了生を追跡調査する手法を策定し、実施する。	→追跡調査の実施 (2013年度までに)	D	C	/	/	/
2. 学位授与基準、修了認定基準に則った手続きが行われているか検証する体制を整備する。	→審査委員会の報告に対する研究科委員会による手続きの検証実施 (2013年度より)	C	C	/	/	/
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目 6.4.1	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。 (説明) 教育成果の測定についてはまだ模索中であるが、2008年度から2010年度前期課程修了者の進路把握状況は以下の通りである。2008年度修了者11名 (伝道者4名、就職2名、進学2名 [うち、本研究科後期課程・1名]、不明3名)、2009年度修了者9名 (伝道者4名、就職2名、進学3名 [うち、本研究科後期課程・2名])、2010年度修了者6名 (伝道者3名、就職1名、進学2名 [うち、本研究科後期課程・1名])
☆ 小項目 6.4.2	6.4.2 学位授与 (卒業・修了判定) は適切に行われているか。 (説明) 学位授与基準および修了認定基準に則って、審査委員会報告に対する手続きの妥当性を検証する仕組みを検討中である。ディプロマ・ポリシー (学位授与方針) の策定 (明文化) を行ったことを踏まえて (2010年3月研究科委員会承認)、継続検討の必要がある。博士学位申請論文の審査にあたって、2008年度から審査委員のうち副査1名は、学外あるいは研究科外の者としている。また口頭試問を公開とし、厳正かつ適切な審査の確保に努めている。
その他	

《評価指標データ》

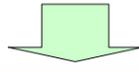
各学部における学生の進路状況
一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
修士学位・博士学位・専門職学位の授与数
KGPSの修士学位・専門職学位の授与数
3年卒業の適用者数
ジョイント・ディグリーの授与者数
標準修業年限未満の修了者の数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.4.1	「学位取得までのプロセス（博士）」（2008年度設定）にしたがって、後期課程在籍者（2008年度入学）1名が、計3年間で博士号を取得した（2011年3月）。
★小項目6.4.2	
その他	



《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

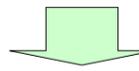
注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.4.1	「学位取得までのプロセス」について、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）を整えた後、各ポリシーに照らして再度検証を行う。その過程においては、学位取得を目的とした研究助成制度の積極的な申請を促す。
★小項目6.4.2	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	



《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	

◎自由記述

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○対応の難しい中項目ですが、「効果が上がっている事項」に記載されているような成果も見られます。ひきつづき努力が期待されます。

【学内委員】

○若干の進展は認められますが、成果を測定する方法と指標の策定、およびそこに至るまでのスケジュールを示すことが望まれます。

○6.4.1教育成果の測定については前年度の報告と変わらず「模索中」ということですが、具体的な方策を挙げて改善することが望まれます。

○目標1の進捗評価がD→Cとなったのは何かしら進展があったからだと思いますが、現状説明、効果が上がっている事項から読み取れません。

○成果を測定することは大変難しいことですが、それを開発し検証することで、教育内容や方法などの検証も可能となります。早急な対応が求められます。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・成果の検証は難しい問題ですが、測定方法を確立され、検証されることに期待します。

・自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかり易く説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。加えて、本シートを見ればある程度のことかわかる必要があります。そのためにも現在はどうであるのか、要素を視野に置きながらももう少しご説明をお願いします。

・本項目についてはあまり進展がみられません。検討の具体的スケジュールを明記することが望まれます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.4.1

基盤評価：なし

達成度評価：「学生の学習成果を測定するための評価指標の開発及び教育内容・方法等の改善への活用」に努めている」

○小項目6.4.2

基盤評価：「卒業・修了の要件を明確にし、あらかじめ学生が知ることができる状態にしていること」「学位授与にあたり論文の審査を行う場合にあっては、学位に求める水準を満たす論文であるか否かを審査する基準（学位論文審査基準）を明らかにし、これをあらかじめ学生が知ることができる状態にしていること」

達成度評価：「学位授与方針に従って学位授与を行っている」

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 小項目6.4.1における現状説明について、1999年度以降、博士課程前期課程から後期課程への進学者を毎年度安定的に確保しているとともに、2007年度以降は毎年度1名ずつ、博士学位（甲号）を授与している。また教育成果を測る方法として、進路状況の把握がひとつの手段となり得るが、本人からの届出あるいは指導教員の進路指導と状況の把握について意識が徹底されつつある。その意味において2009年度設定目標1については、進捗状況を「D」から「C」としている。